

## 編集後記

編集委員になった当初、担当順をみて、編集後記を書くのはまだまだ先のことだと思っておりましたが、光陰に閑守なし。ついに編集後記の担当が回ってきました。

快く執筆を引き受けてくれた皆様、編集委員および学会事務局の皆様のご協力のおかげでこんな私でも編集委員を何とかさせていただいております。お礼申し上げます。編集委員をする前は、毎月届く学会誌が多くの方の協力で作られていることも考えずただ机の上に積まれてゆき、下の方にある号は根雪のようになっておりました。最近、他の学会誌も含めできる限り開く努力をし、机の上を耕しております。その結果、「雪が解けて 川となって 山を下り 谷を走る 野を横切り 畑を潤し 呼びかけるよ私に」[1]となり、机の上からアイデアの芽が呼びかけてくれればと思っています。

今年は雪による交通機関の混乱が例年に比べ多かったような気がします。私の住む富山市でも鉄道や飛行機が遅れたり運休したりしました。季節は移りゆくものでこの文章を書いています2月末には、雪も解け市内を流れる川辺に

水仙が咲き始めています。また、2月末頃からゴールデンウィークにかけて、晴れた日には雪で真っ白な立山連峰が屏風のように広がっているのを見ることができます。昔のNHKの天気予報のコーナーを担当されていた倉嶋厚博士のエッセイ[2]の中に、以下のなぞなぞのような文が載っていました(あゝ、授業中にさりげなく言ってみよう)。

「雪が解けたら何になるか。物理の答えは水だが、文学の答えなら「春になる」だろう。」そう、春になるのです。寒ぶりの季節も終わり、ホタルイカの季節となります。今週末はスーパーでぶりの刺身を忘れずに買わなければなりません。この文章が載る頃には、忘れずにホタルイカの刺身を買わなければなりません。載った後は、しらえびを買わないといけません。

機会を見て、富山に来てみませんか。

[1] おお牧場はみどり、訳詞：中田 羽後

[2] 倉嶋 厚：お天気博士の気象ノート（講談社文庫、1985）。

(原 正憲)

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	本島 修	副 会 長	小川 雄一 藤山 寛	常務理事	中村 幸男 (総務委員長)
理 事	疇地 宏 (企画委員長)		板垣 正文 (広告委員長)	伊藤 早苗	
	上杉 喜彦		斧 高一	加藤 敬	
	近藤 光昇 (財務委員長)		坂本 慶司 (広報委員長)	笹尾眞實子 (プログラム委員長)	
	寺井 隆幸		永津 雅章	林 康明 (出版委員長)	
	堀池 寛		山崎 耕造 (編集委員長)		
監 事	飯尾 俊二		松尾 慶一		

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 山崎耕造(名大)

エディター 関子秀樹(九大)、田中雅慶(九大)、福山 淳(京大)、村上匡且(阪大)、室賀健夫(核融合研)

編集委員 秋山毅志(核融合研)、市来龍大(大分大)、出射 浩(九大)、大原 渡(山口大)、神谷健作(原子力機構)、片山一成(九大)、假家 強(筑波大)、菊池崇志(長岡技科大)、熊谷 晃(網ジェイ・イー・ティー)、後藤拓也(核融合研)、小林進二(京大エネ理研)、近藤正聡(核融合研)、三瓶明希夫(京都工繊大)、四竈泰一(京大)、柴垣寛治(鈴鹿高専)、曾我之泰(金沢大)、高橋幸司(原子力機構)、田代真一(阪大接合研)、中村龍史(原子力機構)、原 正憲(富山大)、東口武史(宇都宮大)、藤岡慎介(阪大レーザー研)、前原常弘(愛媛大)、三浦英昭(核融合研)、三宅弘晃(東京都市大)、宮本光貴(鳥根大)、吉沼幹朗(核融合研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第87巻第4号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2011年(平成23年)4月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。